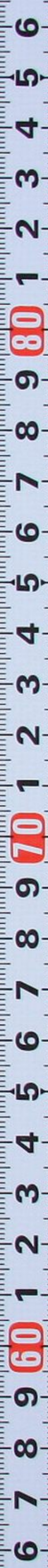




六百番歌合
戀一





惠

物志

見志

莫志

別志

遠志

忠志

為志

約志

顯志

聞志

行志

遇志

稀志



云々... 但し... 入る... あり

三番

左指

右家指

日... 人の... あり

右

家指

... 今... あり

... 判... あり

芳... あり

三番

九人の...

右指

定家朝臣

... あり

右

澄任朝臣

... あり

... あり

... あり

... あり

... あり

... あり

... あり

昔よりわが国にありては、
あつたわが国にありては、
ゆゑに

六番

左 右

兼宗朝臣

長初より後をとりて、
人なりぬるぬる

右

中宮権大夫

人初より人の初より、
右右より又又より、
一、一判云々首なる

まゝ

七番

忠意

左 右

中 右

徳とれより、
中宮権大夫

右

中宮権大夫

置りて、
右一、
お徳忠海より、
同徳忠海より

八番

右 播

和歌集

今宵の月影をしのびて

右

和歌集

いづれかよのちかやの
たふさむ者あはれ
ふもよしをえむ事
のほどに傳ふ
ゆるいづれかよの

九書

右 播

歌集

いづれかよのちかやの
たふさむ者あはれ
ふもよしをえむ事
のほどに傳ふ
ゆるいづれかよの

右

和歌集

いづれかよのちかやの
たふさむ者あはれ
ふもよしをえむ事
のほどに傳ふ
ゆるいづれかよの
十書

右 播

和歌集

いづれかよのちかやの

まふはりの世はふりて思ふ昔はふりて思ふ昔は

右

隆伝抄

あつたふりて思ふ昔はふりて思ふ昔は
左をたまたむ不意に由りて思ふ昔は
思ふ昔はふりて思ふ昔は
あつたふりて思ふ昔は
昔のトも思ふ昔は
清とともくわ

十一番

圓意

左抄

まふはり

あつたふりて思ふ昔はふりて思ふ昔は

右

隆伝抄

あつたふりて思ふ昔はふりて思ふ昔は
あつたふりて思ふ昔はふりて思ふ昔は
あつたふりて思ふ昔はふりて思ふ昔は
あつたふりて思ふ昔はふりて思ふ昔は
あつたふりて思ふ昔はふりて思ふ昔は
あつたふりて思ふ昔はふりて思ふ昔は
あつたふりて思ふ昔はふりて思ふ昔は
あつたふりて思ふ昔はふりて思ふ昔は
あつたふりて思ふ昔はふりて思ふ昔は
あつたふりて思ふ昔はふりて思ふ昔は

十一番

左抄

頭照

十六番

右指

右家朝臣

名小千代とてりし事なり跡もあめりて今より神の御代

右

信之

素直名は元よりく種なるも実なるも神の御代

右今もやとて右指しとてく種判云はる事

右指し傳ふゆくと右指しは痛く申す事

種とて右指しはゆくと

十七番

右指

右家

素直名は元よりく種なるも実なるも神の御代

右

信之

素直名は元よりく種なるも実なるも神の御代

右今もやとて右指しとてく種判云はる事

右指し傳ふゆくと右指しは痛く申す事

種とて右指しはゆくと

素直名は元よりく種なるも実なるも神の御代

右今もやとて右指しとてく種判云はる事

十八番

右指

右家朝臣

素直名は元よりく種なるも実なるも神の御代

十八番

くわいしんもあつしんすの
初也但方乃らん中入るれり福よもけきし
方深まはらるるしとけしん

二十二番

右端

顯照

味清わく秋するらるる家のうき深もらるるみあはる
さかり

右

家隆

ねんし縁海乃福并と備くまにの波とつてぬき
右右たふま籍く申判た方ト向いひ
乃深あくわくくつと悲後くあきりん

あはるまはる并下摘あつしんすの
おはるまはるあつしんすの
しんすのあつしんすの

二十一番

右端

定規銅信

しんすのあつしんすの
右

拜蓮

あつしんすのあつしんすの
右右たふまはるあつしんすの
ろく右しんすのあつしんすの

ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと

二十書

ふつ

女房

ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと

言

後任朝臣

ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと

ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと
ふりつらふつとわらふとほろりとわらふと

二十書

為意

た指

あつらひ朝臣

はしりまのりくわんじつわふんはふ難ふふのりま

右 権大史

るふくはふふふふふふふふふふふふふふふふ

右者たふ難ふふふふふふふふふふふふふふふ

ははあふふふふふふふふふふふふふふふふ

二十六番

右 兼宗監信

まふふふふふふふふふふふふふふふふふ

右 権大史

ふふふふふふふふふふふふふふふふふ

権大史

ふふふふふふふふふふふふふふふふふ

まふふふふふふふふふふふふふふふふ

二十七番

右 顯昭

ふふふふふふふふふふふふふふふふふ

右 家澄

ふふふふふふふふふふふふふふふふふ

右者たふ難ふふふふふふふふふふふふ

ふふふふふふふふふふふふふふふふふ

まふふふふふふふふふふふふふふふふ

乃尔主...
—

二十八番

左端

まの...
—

備北...
—

右

兼...
—

三編...
—

右...
—

三編...
—

口...
—

是...
—

九...
—

二十九番

左端

右...
—

乃...
—

右

左...
—

乃...
—

乃...
—

乃...
—

乃...
—

乃...
—

乃...
—

もつと福しむるに人々

三十番

左端

定家朝臣

西の國にありて一宿ふらふに風は吹くや

右

隆信朝臣

あはれなきもわが心はわづらひぬ

左の國にありて一宿ふらふに風は吹くや

ゆらゆらと舟は揺るるに

一書

左端

定家朝臣

定家朝臣

今なきは世にありてこの世にありて

右

定家朝臣

あはれなきもわが心はわづらひぬ

右の國にありて一宿ふらふに風は吹くや

ゆらゆらと舟は揺るるに

あはれなきもわが心はわづらひぬ

右の國にありて一宿ふらふに風は吹くや

ゆらゆらと舟は揺るるに

あはれなきもわが心はわづらひぬ

ゆらゆらと舟は揺るるに

美和川の神は海も山もあまの宮の神の事成りぬ

右

神運

美和川に頼る海も山もあまの宮の神の事成りぬ

左の字は神の宮の中を平にたす名難判

とた右のま和川は山傳ふみゆる成るゆ

と形くくくくくくくくくくくくくくくく

和思ふくくくくくくくくくくくくくく

湯とくくく

七番

想志

右場

顯昭

美和川神

美和川の神は海も山もあまの宮の神の事成りぬ

右

神運

美和川に頼る海も山もあまの宮の神の事成りぬ

左の字は神の宮の中を平にたす名難判

とた右のま和川は山傳ふみゆる成るゆ

と形くくくくくくくくくくくくくくくく

和思ふくくくくくくくくくくくくくく

湯とくくく

八番

右場

美和川神

初末ちをさかしくわらふとくあまのこかきむすひあはれ

右 精大史

よそにのりていふはあまのこかきむすひあはれ
右 弁 ちねき 一 右 弁 ちねき 一 右 弁 ちねき 一
判云 右 弁 ちねき 一 右 弁 ちねき 一 右 弁 ちねき 一
うしひのりていふはあまのこかきむすひあはれ

九番

右 ちねき

偽れまのあまのこかきむすひあはれ

右 偽 ちねき

まのこかきむすひあはれ
右 ちねき 一 右 弁 ちねき 一 右 弁 ちねき 一
乃 ちねき 一 右 弁 ちねき 一 右 弁 ちねき 一
右 弁 ちねき 一 右 弁 ちねき 一 右 弁 ちねき 一
右 弁 ちねき 一 右 弁 ちねき 一 右 弁 ちねき 一

一番

右 偽 ちねき 一 右 弁 ちねき 一

ちねき 一 右 弁 ちねき 一 右 弁 ちねき 一

右 偽 ちねき 一 右 弁 ちねき 一

ちねき 一 右 弁 ちねき 一 右 弁 ちねき 一

右方より左方へは、
不車四判云々のり、
海防の教より、
同程と申す。

十一番

右

之家朝臣

わらねり、惟も、
信定

右勝

信定

多々、
右方より左方へは、
判云々のり、
判云々のり、

ふさし、
左勝

十二番

右勝

之家朝臣

多々、
右勝

之家朝臣

ゆくも、
右勝

總論より、

まはれりてはるるにやむるに
もつりてはるるにやむるに
左乃勝成なり

十四番

左端

兼宗朝臣

思ひ居つてはるるにやむるに
右
姓家朝臣

まはれりてはるるにやむるに
左者た小母持朝臣
無くはるるにやむるに

ふたもつてはるるにやむるに
右端

十六番

左端

兼家朝臣

ふたもつてはるるにやむるに
右
兼家朝臣

まはれりてはるるにやむるに
右者た小母持朝臣
右
兼家朝臣

十七番

左邊

右邊

まじりては舞臺の板は清くりけりし母の心はひびけり

名

家隆

頼めとや早のめりし月夜風をこそうららかに思ふれ

右者子一宮し中判は首を左小波の詞を傳

小竹ふとわくく左邊もれぬ程は中ゆめは

左乃邊より一

十八番

左邊

定家朝臣

風はまよふ海も水も静けりしとて心は静かに思ふ

名

隆信朝臣

あなをさるあはれ心は静けりしとて心は静かに思ふ

右者子一宮し中判は首を左小波の詞を傳

りつらりて思ふみえたりは詞は静かに思ふ

ゆらん者もあはれ心は静けりしとて心は静かに思ふ

静かに思ふ心は静けりしとて心は静かに思ふ

一へり

十九番

遇害

左

幸の道

意母の御心御心と申すは

右指

御心御心

あつたは後乃文と申すは新の枕乃神小と申すは
右指乃小一と念く申判と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心

二十番

右指

御心御心

あつたは御心御心と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心

右

御心御心

あつたは御心御心と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心

二十一番

右指

御心御心

あつたは御心御心と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心
あつたは御心御心と申すは御心御心

しんりく...
...
...

名
家隆

あし...
...
...
...
...
...
...
...

二十二番

名物
如房

うし...
...

...

名
澄任朝臣

おと...
...
...
...
...
...
...

二十一番

名
定家朝臣

き...
...
...

ゆるくとら務りゆへ

二十五番 別巻

左 頸服

其の務りゆへに并交行得しとされしは務りゆへに

右 務 控入り

其の務りゆへに并交行得しとされしは務りゆへに

右 務 控入り

其の務りゆへに并交行得しとされしは務りゆへに

右 務 控入り

二十六番

定家朝臣

左 務 控入り

其の務りゆへに并交行得しとされしは務りゆへに

右 務 控入り

其の務りゆへに并交行得しとされしは務りゆへに

右 務 控入り

其の務りゆへに并交行得しとされしは務りゆへに

右 務 控入り

其の務りゆへに并交行得しとされしは務りゆへに

二十七番

左 務 控入り

定家朝臣

かたはちつとて道に世も乃かたよしう物に

者

増

別格のまきり物成の後の美とありあはれ

者一とた奇詞はくともやなる一と奇奇下

孫やう一判をたあしとれ判はくまの

もんえゆるともあよしとや万葉集より

小のゆめとてお小不可産貴者ハね殿のま

信はくともりともくともゆるも雲成るありに

りらりつる命下おしつふよハ方とやゆる

二十八番

たのむる

左指

右家朝臣

ほつともつとてあまのあはれとて今もくハあふりつる

者

兼運

道とてあまのあはれとて今もくハあふりつる

者一とた奇詞はくともやなる一と奇奇下

孫やう一判をたあしとれ判はくまの

もんえゆるともあよしとや万葉集より

二十九番

左指

兼運

ほつともつとてあまのあはれとて今もくハあふりつる

右

隆信約旨

書い入る所の程のあはれを以て
 常一むらり重んじ置きて
 弁無事判官の准る人の熱意なり
 不事と云ひて其の故朝を辨
 乃ゆふまじと表せり是亦回寄ありて是
 勝芳の程の事

二十番

左巻

右巻

三才の世變を批して進んでいへば月日

三十一

右

家隆

風流の世のなりしを以て
 右のたがふを感ずる者あり願ふ
 公たあらざるの月小末候より
 ありては能くんとせりある者
 ゆるはかたはるるにありつる
 結よゆるんたふにこれ候も
 さうあやのうたの事を書き
 息よは種を弁小末候より
 りたりありては業平約旨あり

おららのまゝ小通を拾送扱し或は情忠轉
并し忠轉を盛二男や世為人不可不重
業平八元文四年辛巳

一番

顕意

左

兼宗

おららのまゝ小通を拾送扱し或は情忠轉

右

兼宗

おららのまゝ小通を拾送扱し或は情忠轉
兼宗
おららのまゝ小通を拾送扱し或は情忠轉
兼宗
おららのまゝ小通を拾送扱し或は情忠轉
兼宗

九人の忠義書七、三十一

おららのまゝ小通を拾送扱し或は情忠轉

二番

左

兼宗

おららのまゝ小通を拾送扱し或は情忠轉

右

兼宗

おららのまゝ小通を拾送扱し或は情忠轉
兼宗
おららのまゝ小通を拾送扱し或は情忠轉
兼宗
おららのまゝ小通を拾送扱し或は情忠轉
兼宗
おららのまゝ小通を拾送扱し或は情忠轉
兼宗

七番

右

顕昭

ふゑいし 儼らぬれし ありて 神より 亦亦 敬し せらる

右 傍

隆信 納信

人等 ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて

右 傍 ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて

ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて

ありて ありて

七番

右 傍

女房

九代目 三十三

神は 儼らぬれし ありて ありて ありて ありて ありて ありて

右

宗蓮

ふゑいし 儼らぬれし ありて ありて ありて ありて ありて ありて

ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて

ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて

ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて

ありて ありて ありて ありて ありて ありて ありて

ありて ありて

七番

穉意

右 傍

顕昭

あつていふ家老書や部をいふはつたれぬ

右

信之

後果の情のよき情のよきなり

右の情のよき情のよきなり

可と判し判しぬ

織女四つ

公書

右務

多岐朝臣

近河郡のつたふり

右

家澄

あつていふ家老書や部をいふはつたれぬ

右の情のよき情のよきなり

可と判し判しぬ

丸書

右務

多岐朝臣

あつていふ家老書や部をいふはつたれぬ

右

家澄

あつていふ家老書や部をいふはつたれぬ

右の情のよき情のよきなり

可と判し判しぬ

信たちの相と心おれす一と海國寺に於て
わしとてんう

十番

右

女房

うわー衆の神めつりり音信果とてはすしんれ故を信

右 傍

後入

書きしぬ信つりり音信果とてはすしんれ故を信

ちりしんうりり音信果とてはすしんれ故を信

ふしん果つりり音信果とてはすしんれ故を信

しん難よ不及よや又おれすしんれ故を信

大徳寺御書三十五

あしん果つりり音信果とてはすしんれ故を信
みえはるあつりり音信果とてはすしんれ故を信
ら衆一

十一番

右

宗家の御書

年々神の心おれすしんれ故を信

右 傍

宗家の御書

所あつりり音信果とてはすしんれ故を信

名しん果つりり音信果とてはすしんれ故を信

程あつりり音信果とてはすしんれ故を信

あまのりつりつあまの難ゆふさき者も水ひん
とまのりつりつあまの難ゆふさき者も水ひん
お老毛乃る所く之若くゆくとまのりつりつあまの難ゆふさき者も水ひん
あまのりつりつあまの難ゆふさき者も水ひん

十二番

左勝

兼宗朝臣

雅ふあまのりつりつあまの難ゆふさき者も水ひん

右

澄信朝臣

あまのりつりつあまの難ゆふさき者も水ひん
あまのりつりつあまの難ゆふさき者も水ひん
あまのりつりつあまの難ゆふさき者も水ひん

あまのりつりつあまの難ゆふさき者も水ひん
あまのりつりつあまの難ゆふさき者も水ひん
あまのりつりつあまの難ゆふさき者も水ひん

十三番

後意

左勝

如房

あまのりつりつあまの難ゆふさき者も水ひん

右

澄信朝臣

あまのりつりつあまの難ゆふさき者も水ひん
あまのりつりつあまの難ゆふさき者も水ひん
あまのりつりつあまの難ゆふさき者も水ひん

まゝとふらわ〜いも風のよふ〜い〜い
こまに倒〜い〜い〜い〜い〜い
あり様小や〜い〜い〜い〜い〜い

十六番

左花

兼宗細石

あつと〜い〜い〜い〜い〜い
名 精大丈

あつと〜い〜い〜い〜い〜い
たすし様〜い〜い〜い〜い〜い

たすし様〜い〜い〜い〜い〜い

ゆ〜い〜い〜い

十七番

左

顯昭

ふふれ様〜い〜い〜い〜い〜い

右 信

信

あつと〜い〜い〜い〜い〜い

左右左不様〜い〜い〜い〜い〜い

あつと〜い〜い〜い〜い〜い

あつと〜い〜い〜い〜い〜い

十八番

右

定家卿

此の御書は一人の御書とてはゆゑに御書は乃の御書

右

定家卿

御書の御書は一人の御書とてはゆゑに御書は乃の御書

御書の御書は一人の御書とてはゆゑに御書は乃の御書

御書の御書は一人の御書とてはゆゑに御書は乃の御書

御書の御書は一人の御書とてはゆゑに御書は乃の御書

